

2026 年度

立教セカンドステージ大学
科目聴講生用

講義内容(シラバス)

- (1) 開講科目一覧表
- (2) 講義内容(シラバス)

2026年度 開講科目一覧（科目聴講生用）

2026年2月現在

■今回は春学期（夏期集中講義含む）の申込です。秋学期の申込は8月ですので、ご注意ください。

	科目コード	科目名	担当者	開講日程		シラバス
第1群 エイジング 社会の 教養科目群	OG125	聖書と私	新井 美穂	秋学期	金 4	P 1
	OG112	古典和歌を読むB	加藤 睦	秋学期	金 5	P 2
	OG143	日本思想を名著でたどる	大熊 玄	春学期	金 2	P 3
	OG102	東洋思想からの問い	松本 秀士	秋学期	火 5	P 4
	OG149	自由な市民のための映画学入門	中村 秀之	春学期	水 4	P 5
	OG160	現代美術に親しむ	菊池 敏直	秋学期	火 3	P 6
	OG157	宗教から世界を読む 	佐藤 壮広	夏期集中	8/27, 28, 31	P 7
	OG177	フランスの政治・社会・文化	橋本 晃	秋学期	金 5	P 8
	OG254	現代の化学の理解と社会生活との関わり	宮部 寛志	秋学期	月 4	P 9
	OG179	数理のマジカル・ミステリー・ツアー	浜田 忠久	秋学期	月 5	P 10
	OG154	アメリカ現代文化史	生井 英考	秋学期	水 5	P 11
	OG166	文化人類学の世界 	栗田 和明	春学期	水 5	P 12
	OG158	「実験心理学」への招待 	堀 耕治	春学期	月 4	P 13
	OG176	Media Studies	黄 盛彬	春学期	金 1	P 14
第2群 コミュニ ティ デザイン と ビジネス 科目群	OG239	プラチナ社会におけるアクティブシニア論	松田 智生	秋学期	火 5	P 15
	OG226	修了生が語るアクティブシニアの生き方	山口 一夫	秋学期	金 4	P 16
	OG244	NPO法人の理論と事例研究	森 卓也	春学期	火 5	P 17
	OG219	ソーシャルビジネスの理論と実務	永沢 映	夏期集中	8/24~26	P 18
	OG256	生物多様性と社会の持続可能性	奇二 正彦	春学期	月 5	P 19
	OG242	国際政治とグローバル市民社会の構想	竹中 千春	秋学期	火 4	P 20
	OG236	現代社会と民法	野澤 正充	夏期集中	8/3~5	P 21
	OG243	金融論	鉢村 健	秋学期	水 4	P 22
	OG247	信託機能を活用した社会貢献・財産管理	堂園 昇平	秋学期	月 4	P 23
	OG253	シニアのための経営学	佐々木 宏	秋学期	水 4	P 24
第3群 セカ ン ド ス テ ー ジ 設 計 科 目 群	OG300	社会老年学	安藤 孝敏	春学期	金 4	P 25
	OG330	最後まで自分らしく	小谷みどり	春学期	金 5	P 26
	OG327	セカンドステージの哲学対話 	佐々木一也	春学期	火 4	P 27
	OG334	死生観と精神的健康 	大野 久	秋学期	火 1	P 28
	OG328	江戸川乱歩をセカンドステージで読む 	石川 巧	夏期集中	9/9~11	P 29
	OG315	セカンドステージの住まいづくり	甲斐 徹郎	夏期集中	8/6, 7, 10	P 30
	OG350	現在（いま）を生きるための健生学	堀 エリカ	夏期集中	8/27, 28, 31	P 31
	OG323	ケア（対人援助）の方法論 	結城 俊哉	夏期集中	9/4, 7, 8	P 32
OG105	健康長寿とアンチエイジング	杉浦 克己	夏期集中	8/3~5	P 33	
OG312	セカンドステージとテクノロジー	村上 祐子	秋学期	火 2	P 34	

科目コード	OG125	科目名	聖書と私	科目群	第1群
担当者	新井 美穂 (アライ ミホ)				
開講日程・時限	秋学期・金曜日・4時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	聖書を学ぶ事を中心にキリスト教に親しむ事を目標にします。聖書は私たちの姿や社会を炙り出します。混迷と闇の時代を生きる者として、自分を見つめ、互いを生かし合い(愛)生かされ合う生き方の源泉を聖書から考えたいと思います。				
授業の内容	講義中心の「聖書」についての入門講座です。前半は旧約聖書の出エジプトに焦点を当て、その後イスラエル史を概観し、イスラエルの神とメシアを待望する民の関係について考えます。後半は福音書を中心にイエス・キリストの教えと生涯が投げかける問いを探ります。聖書を通して、現代社会の問題も絡めながら、神と人間、自分自身や社会について見つめ、聖書のメッセージに傾注したいと思います。教会暦についても学びます(内容や形式は必要に応じて微修正を行います)。				
授業計画	第1回 9/25 聖書に親しむ～開き方から学び、創世記 1章 2章に学ぶ 第2回 10/2 キリスト教に親しむ～ユダヤ教とキリスト教の関係 第3回 10/9 エジプト脱出～旧約聖書の「神の選び」について考える 第4回 10/16 十戒について 第5回 10/23 イスラエルの歴史～エジプト脱出後から王国成立まで 第6回 10/30 教会暦/イスラエルの歴史～王国分裂と預言者の働き 第7回 11/6 イスラエルの歴史～バビロン捕囚と帰還 第8回 11/20 イスラエルの歴史～ヘレニズム世界の支配の下で 第9回 11/27 教会暦/イエス・キリストについて～誕生物語その1 第10回 12/4 イエス・キリストについて～誕生物語その2 第11回 12/11 イエス・キリストについて～たとえ話・奇跡物語 第12回 12/18 イエス・キリストについて～たとえ話・奇跡物語 第13回 1/8 イエス・キリストについて～受難物語その1 第14回 1/22 イエス・キリストについて～復活物語その2				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	お持ちの聖書で構いません(必要なものはプリントします)				
上記教科書以外の参考図書	池澤夏樹、2012、『ぼくたちが聖書について知りたかったこと』、小学館、770円(税込)。ナウム・アティーク、2019、『サビールの祈り パレスチナ解放の神学』(岩城聰訳)、教文館、2,420円(税込)。月本昭男、2024、『物語としての旧約聖書』、NHK出版、1,980円(税込)。				
その他(HP等)					

科目コード	OG112	科目名	古典和歌を読む B	科目群	第 1 群
担当者	加藤 睦 (カトウ ムツミ)				
開講日程・時限	秋学期・金曜日・5 時限	授業方式	対面	単位数	2 単位
備考					
授業の目標	西行の秀歌を読み解く				
授業の内容	平安時代末期に生き、多くの和歌を詠み残した西行（1118 年～1190 年）の秀歌を、できるだけ多く読解、鑑賞しましょう。「秀歌」としては、八番目の勅撰和歌集『新古今和歌集』に採られた和歌、西行自身が自らの秀歌として選び取り、歌合の形式に編集した『御裳濯河歌合』（みもすそがわうたあわせ）、『宮河歌合』（みやがわうたあわせ）に収められた和歌の中から、四季の歌、恋の歌、雑（ぞう）の歌を厳選して取り上げます。				
授業計画	第 1 回 9/25 西行について（概説） 第 2 回 10/2 四季の歌（1） 第 3 回 10/9 四季の歌（2） 第 4 回 10/16 恋の歌（1） 第 5 回 10/23 恋の歌（2） 第 6 回 10/30 雑の歌（1） 第 7 回 11/6 雑の歌（2） 第 8 回 11/20 四季の歌（3） 第 9 回 11/27 四季の歌（4） 第 10 回 12/4 恋の歌（3） 第 11 回 12/11 恋の歌（4） 第 12 回 12/18 雑の歌（3） 第 13 回 1/8 雑の歌（4） 第 14 回 1/22 まとめ				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	なし（毎回プリントを用意します）				
上記教科書以外の参考図書					
その他（HP 等）					

科目コード	0G143	科目名	日本思想を名著でたどる		科目群	第1群
担当者	大熊 玄 (オオクマ ゲン)					
開講日程・時限	春学期・金曜日・2時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位	
備考						
授業の目標	日本の古代から中世の思想を考える上で欠かせない14の文献を扱い、その内容に直接にふれることで日本思想を学び、考えます。					
授業の内容	この授業は、日本の古代から中世において何が考えられていたのか、文献の内容を現代語訳で理解し、その思想について考える日本思想の入門講座です。受講者は、配布される原文や現代語訳を参考に、講師による各文献の思想の抽出・説明を聞き、思想的な教養を身につけるとともに、単に情報として受け止めるだけでなく、なぜそのように考えられたのか、その文献に込められた「想い」をとらえ、自分なりの思考を紡ぐ、日本「哲学」入門も目指します。					
授業計画	第1回 4/10 「十七条憲法」7c初 in 『日本書紀』8c初 第2回 4/17 『古事記』8c初 第3回 4/24 『万葉集』7～8c 第4回 5/8 『三教指帰』8c末 第5回 5/15 『日本霊異記』9c初 第6回 5/22 『古今和歌集』10c初 第7回 5/29 『枕草子』10c末 第8回 6/5 『新古今和歌集』13c初 第9回 6/12 『方丈記』13c頭 第10回 6/19 『選択本願念仏集』12c末 第11回 6/26 『歎異抄』13c末 第12回 7/3 『正法眼蔵随聞記』13c 第13回 7/10 『立正安国論』13c 第14回 7/17 『徒然草』14c * 扱う文献は進行状況や要望により変更されることがあります。					
成績評価方法	平常点による評価					
講義中に直接使用する教科書	資料は、オンライン授業支援システム「Canvas LMS」にて配布します。					
上記教科書以外の参考図書						
その他 (HP 等)						

科目コード	OG102	科目名	東洋思想からの問い	科目群	第1群
担当者	松本 秀士 (マツモト ヒデシ)				
開講日程・時限	秋学期・火曜日・5時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考					
授業の目標	東洋思想の中でも、中国の伝統的な思考法を、漢詩・故事・伝統医学等を含む諸説から取り上げながら、日本では焦点となることの少ない、その本質的意義を探究する視点を養う。				
授業の内容	中国に古くより伝わる漢詩・故事・伝統医学を含む諸説等を原語（現代中国語を含む漢文）で講読しながら、その根底にある伝統的思考の特質を直読的に読み解いていく。そのことを通して独特の思考的リズムを感じながら、漢文を構成する漢字が本来備える思想的重みを体得することで、現代人が見失ってきた本質的意義を探究したい。また現代中国の概況の一端を紹介しながら、今日に伝わる伝統的おしえのあり方についても触れる。なお、漢文等の学習歴は問わない。				
授業計画	<p>第1回 9/29 ガイダンス（当授業における探究法等について）</p> <p>第2回 10/6 漢字文化とそのメッセージ性</p> <p>第3回 10/13 漢文の現代中国における位置づけ</p> <p>第4回 10/20 漢詩を構成する自然科学的視点</p> <p>第5回 10/27 漢詩にみるおしえ</p> <p>第6回 11/10 中国故事にみる思考</p> <p>第7回 11/17 中国古代の“道徳”</p> <p>第8回 12/1 “タオ”の原理</p> <p>第9回 12/8 中国伝統の養生にみるおしえ</p> <p>第10回 12/15 中国伝統医学にみる身体論</p> <p>第11回 12/22 中国伝統の医食思想にみる思考</p> <p>第12回 1/12 現代中国の都市づくりにみる伝統のおしえ</p> <p>第13回 1/19 総括</p> <p style="text-align: center;">* ゲストスピーカーを予定している</p>				
成績評価方法	平常点および期末レポートの総合評価				
講義中に直接使用する教科書	資料の一部は pdf ファイルにてデジタル配布する				
上記教科書以外の参考図書	<p>王力、1962、『古代漢語』、中華書局。</p> <p>蜂屋邦夫訳註、2008、『老子』、岩波文庫、1,353円（税込）。</p> <p>南京中医学院医経教研組、1991、『黄帝内経素問 上・中・下巻』、東洋学術出版社。</p>				
その他（HP等）					

科目コード	OG149	科目名	自由な市民のための映画学入門	科目群	第1群
担当者	中村 秀之（ナカムラ ヒデユキ）				
開講日程・時限	春学期・水曜日・4時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	映画の「作品」としての特性と表現の基本を学ぶことによって（「既成の先入観や価値観から自由に」なり）新たに創造された独自の世界として映画作品を味わう姿勢を身につける。				
授業の内容	この授業では、映画を手軽に視聴できるようになった現代社会の状況を踏まえて、映画を「作品」としてとらえる視点から、その特性と表現の基本を講義します。対象として山中貞雄監督（1909-1938）のそれぞれタイプの異なる3本の傑作をとりあげ、まず一度、全体を観覧してから、次に物語（内容と構成）とスタイル（映像と音響の技法）の要点を（必要に応じて他の監督の作品も参照しながら）解説し、最後に、重要な場面を集中的に研究することで作品の理解を深めます。				
授業計画	第1回 4/15 導入、『丹下左膳餘話 百萬兩の壺』（1935年）観覧① 第2回 4/22 『百萬兩の壺』観覧②（つづき） 第3回 5/13 『百萬兩の壺』物語の検討 第4回 5/20 『百萬兩の壺』スタイルの検討 第5回 5/27 『百萬兩の壺』主要場面の研究 第6回 6/3 『河内山宗俊』（1936年）観覧 第7回 6/10 『河内山宗俊』物語とスタイルの検討 第8回 6/17 『河内山宗俊』主要場面の研究 第9回 6/24 『人情紙風船』（1937年）観覧 第10回 7/1 『人情紙風船』物語とスタイルの検討 第11回 7/8 『人情紙風船』主要場面の研究 第12回 7/15 まとめ				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	教科書を購入する必要はありません。 Canvas LMSを通して教材を配布します。				
上記教科書以外の参考図書	D. ボードウエル、K. トンプソン、2007、『フィルム・アート——映画芸術入門』、（藤木秀朗監訳）、名古屋大学出版会、5,280円（税込）。 その他、適宜、授業の中で紹介します。				
その他（HP等）	連絡や教材の配布などに RIKKYO Gmail、Canvas LMS、Google ドライブを利用します。				

科目コード	OG160	科目名	現代美術に親しむ	科目群	第1群
担当者	菊池 敏直 (キクチ トシナオ)				
開講日程・時限	秋学期・火曜日・3時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考					
授業の目標	「見えたもの」をもっとよく見ようとする 「見えていないもの」も見ようとする ワタシや私達の生活のすぐ隣に美術があることに意識的になる				
授業の内容	『現代美術』が何かではなく“いま・ここ”に現代美術と言われるものがある、その成立ちや背景の簡単な解説をします。そこでワタシと美術の関係を振り返りながら現代美術という現象を考えてみましょう、という構成です。例えば、絵を見たときに「何が」ではなく「どう」描かれているかという問いへワタシの視点を変え、リアルタイムに進行・展開する美術という造形表現からワタシが作品や表現の指し示すものを判断・評価できるようになるためのアシストです。				
授業計画	第1回 9/29 美術と自分史 第2回 10/6 鳥の声 第3回 10/13 見えることと見ること・目の仕組み 第4回 10/20 20世紀美術略説① 第5回 10/27 新しい造形表現の展開 第6回 11/10 ○△□ 第7回 11/17 20世紀美術略説② 第8回 12/1 水のカタチ 第9回 12/8 20世紀美術略説③ 第10回 12/15 思考と嗜好と志向と至高 第11回 12/22 極少の美学 第12回 1/12 開放と閉鎖 第13回 1/19 鏡を見ながらもう一度「見る」を考える				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	ゴンブリッジ E.H、2024、『美術の物語 ポケット版』、河出書房新書、4,389円(税込)。暮沢剛己、2009、『現代美術のキーワード100』、ちくま新書、945円(税込)。山本浩貴、2019、『現代美術史 - 欧米日本トランスナショナル』、中公新書、1,056円(税込)。				
その他 (HP 等)					

科目コード	OG157	科目名	宗教から世界を読む	科目群	第1群
担当者	佐藤 壮広 (サトウ タケヒロ)				
開講日程・時限	夏期集中 8月27日、28日、31日(10:00~17:00)	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	本授業の目標は、現代世界を理解する重要なスコープとして「宗教」を位置付け、自身の人生というごく身近なトピックから地球上で展開している世界情勢までの広い範囲の出来事を、「宗教」という観点から理解することである。				
授業の内容	人類にとっての宗教の意味・意義を、宗教学の視点から探究する。基礎的トピックとして、神話、儀礼、聖典、聖地、信仰、教団、聖と俗、死生観などを解説する。事例としてキリスト教のクリスマス、沖縄の海神祭、メキシコ「死者の日」などの祭り、現代のスピリチュアルな癒しと聖地巡礼、文芸と宗教、メディアと宗教、芸能と宗教、戦争と宗教、脳科学と宗教など広範なトピックを扱いながら、宗教学的視点を養い、世界を読む鍵としての「宗教」について理解を深める。				
授業計画	<p>第1日 第1回 宗教を研究することの意味・意義—宗教学入門(1) 対象</p> <p>第2回 宗教を研究することの意味・意義—宗教学入門(2) 方法</p> <p>第3回 人間の営みとしての宗教現象へのアプローチ 聖と俗</p> <p>第4回 神話と儀礼</p> <p>第5回 聖地</p> <p>第2日 第6回 聖典</p> <p>第7回 信仰共同体</p> <p>第8回 祭りと文化—芸能と宗教</p> <p>第9回 死生観(1)現世の意味づけ</p> <p>第10回 死生観(2)他界・死後世界のイメージ</p> <p>第3日 第11回 ニュー・エイジとスピリチュアル ブーム</p> <p>第12回 宗教と戦争・テロ</p> <p>第13回 脳科学と宗教</p> <p>第14回 まとめ—宗教から読む世界と私</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	なし				
上記教科書以外の参考図書	櫻井義秀・三木英編、2007、『よくわかる宗教社会学』、ミネルヴァ書房、2,640円(税込)。櫻井義秀・平藤喜久子編、2015、『よくわかる宗教学』、ミネルヴァ書房、2,640円(税込)。渡邊直樹責任編集、2007-2016、『宗教と現代がわかる本』、平凡社、1,760円(税込)。				
その他(HP等)					

科目コード	0G177	科目名	フランスの政治・社会・文化	科目群	第1群
担当者	橋本 晃 (ハシモト アキラ)				
開講日程・時限	秋学期・金曜日・5時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	英語と米英の視点・価値観に基づく世界像に覆い尽くされ、自らは経済・ビジネス一辺倒の日本だが、世界に冠たる文化や世界第二位の外交網を誇る大陸欧州の、英米とは異なる文明原理に触れ、重層的な世界・国際関係理解の一助とする。				
授業の内容	フランス文明の諸相を、古代ギリシア・ローマ以来の歴史(タテ)と同時代の国際関係(ヨコ)の両面から講義する。時にフランスを軸に欧州全域や隣接する黒海地域、中東や永遠のライバル英米などにも射程を延ばし、時に政治、社会問題だけでなく柔らかなめの事象から文明の核に迫る。日本とは対極の世界を理解するためには、日本人にとってのアタリマエを相対化し、柔軟な想像力が求められる。さらに講義では様々な逸話にも触れるが、一見周辺的な細部にこそ神が宿ることも理解されたい。				
授業計画	第1回 9/25 はじめに 世界の中のフランスとフランス語圏 第2回 10/2 パリ(上)「花の都」の中心と周縁 第3回 10/9 パリ(下)地下都市～たゆたえども沈まぬ都 第4回 10/16 政治(上)共和国、ライシテ、二大政党凋落とポピュリズム 第5回 10/23 政治(下)街頭直接行動の伝統 第6回 10/30 郊外の憂鬱 「荒れる郊外」と移民 第7回 11/6 国際関係と紛争・戦争 黒海・中東・アフリカ 第8回 11/20 教育 物申す市民の養成とエリート主義 第9回 11/27 映画 言語と並ぶ文化外交の柱 映画・芸術文化政策 第10回 12/4 メディア 米国流と異なるフランスジャーナリズム 第11回 12/11 地域 もうひとつのフランス ミディとブルターニュ 第12回 12/18 永遠のライバル 米英 第13回 1/8 フランス式庭園としての欧州とその終焉 第14回 1/22 フランス的生 la vie française				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	プラット、ポリー、2017、『フランス人 この奇妙な人たち』(桜内篤子訳)、CCCメディアハウス、1,980円(税込)。				
その他(HP等)	リアクションペーパーはCanvas LMSの「ディスカッション」にアップしていただきます。パブリックな議論のフォーラムとしてください。				

科目コード	0G254	科目名	現代の化学の理解と社会生活との関わり	科目群	第1群
担当者	宮部 寛志 (ミヤベ カンジ)				
開講日程・時限	秋学期・月曜日・4時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	化学の歴史を辿ってその基礎に触れ、応用技術が社会に与えた恩恵と影響を知って現代にもつながる課題を考察する。化学の進展に携わった人々の人物像や人生という観点からも化学の歩みを捉え、身近な教養としての化学の理解を深める。				
授業の内容	人類は如何に現在の化学の理解に到達したのか。化学の進展にどのような人物が関わり、彼らはどのような人生を送ったのか。化学周辺的话题を通して人類の自然観・物質観の変遷を俯瞰し、現在に至る歴史を振り返る。また、応用技術の開発や利用の過程で顕在化した様々な問題を考察し、科学技術の展開に我々は如何に向き合うのかを考える契機とする。化学の基礎知識だけではなく、化学の進展に関わった人々の姿や社会的背景等をも踏まえ、化学の多角的な理解を志向する。				
授業計画	第1回 9/28 ガイダンス、古代～中世の自然観・物質観の変遷 第2回 10/5 化学革命（現代化学の黎明期）、原子論復活と分子説の展開 第3回 10/19 元素の発見（金属・気体・貴ガス）、周期律の概念 第4回 10/26 原子の探求（電子・陽子の発見）、X線の発見と原子番号 第5回 11/9 原子構造・電子配置の解明、量子力学、有機化学の草創 第6回 11/16 工業化学の発展（人工染料の合成・ナイロンの発明） 第7回 11/30 大気を変える錬金術（第1回）、化学結合・分子構造 第8回 12/7 大気を変える錬金術（第2回） 第9回 12/14 代表的医薬品の概観、抗生物質（サルバルサン）の開発 第10回 12/21 抗生物質（サルファ剤・ペニシリン）の開発 第11回 1/18 DDT（有機塩素系殺虫剤）、フロン（冷媒）、まとめ				
成績評価方法	平常点および期末レポートの総合評価				
講義中に直接使用する教科書	教科書はありません。パワーポイント画面を使用して講義を行います。				
上記教科書以外の参考図書	様々な数多くの話題を採り上げます。その幅は多岐に亘ります。そのため、特定の参考書はありません。				
その他（HP等）	化学の基礎知識がなくても化学発展の物語として講義を聴講頂けませんが、化学の知識の拡充と理解の深化のため高校以上の基礎的内容も交えて講義を行います。				

科目コード	OG179	科目名	数理のマジカル・ミステリー・ツアー	科目群	第1群
担当者	浜田 忠久 (ハマダ タダヒサ)				
開講日程・時限	秋学期・月曜日・5時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	日常生活や社会のさまざまな場面で役立つ数学的リテラシーを楽しく身につけ、合理的な思考力と判断力を養う。推理小説を題材に、論理的思考・数量的思考・データの読み解きなどを体験的に学び、数学の魅力や発見の喜びを共有する。				
授業の内容	数学がどのように「世界を読み解く道具」になるのかを、物語と推理を通して探る。『探偵フレディの数学事件ファイル』に潜む数学的アイデア（ブール論理・平均・集合・確率・統計など）を、謎解きの感覚で味わいながら、数の不思議や美しさに触れる。パズルやゲーム、物語の推理など、多様な切り口から数学に親しみ、希望者による輪読発表と議論を通して理解を深める。情報を批判的に読み解き、合理的に判断する力を育むことで、公平で公正な市民社会の実現に寄与する。				
授業計画	<p>第1回 9/28 ガイダンス：数学小説で世界を読み解く楽しみ</p> <p>第2回 10/5 ブール論理で謎に迫る：推理の仕組みを探る</p> <p>第3回 10/19 平均・割合のワナ：日常データの落とし穴を知る</p> <p>第4回 10/26 代数モデルで事件を構造化：数量関係を整理する</p> <p>第5回 11/9 集合の結びと交わり：事実関係を見渡す数学的視点</p> <p>第6回 11/16 特別講義：数学でつながる世界【ゲストスピーカー登壇予定】</p> <p>第7回 11/30 直感が外れる確率世界：判断のズレを探究する</p> <p>第8回 12/7 統計とグラフの技法：データの真相に近づく視点</p> <p>第9回 12/14 選挙制度と社会的選択：多数決の影にある数学のしくみ</p> <p>第10回 12/21 自然に潜む自己相似：フラクタルの世界への招待</p> <p>第11回 1/18 フラクタルの応用と複雑系：世界の形を読み解く数学</p> <p style="text-align: center;">* 各回のテーマは受講者の希望に応じて調整する</p>				
成績評価方法	平常点および期末レポートの総合評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	ジェイムズ・D. スタイン、2017、『探偵フレディの数学事件ファイル——LA 発犯罪と恋をめぐる14のミステリー』、科学同人、2,420円(税込)。				
その他 (HP 等)					

科目コード	0G154	科目名	アメリカ現代文化史	科目群	第1群
担当者	生井 英考（イクイ エイコウ）				
開講日程・時限	秋学期・水曜日・5時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	現代アメリカ史のできごとを媒介に、履修生ご自身の記憶をふくめて時代と社会と文化についての考察を深めることを目標とします。				
授業の内容	ヴェトナム戦争の終結から既に半世紀が経過しました。「戦争の記憶」と呼ばれるものは薄らいでいるようですが、実はその影響は見えないところで現代のアメリカ社会を脅かしています。このクラスでは「ヴェトナム戦争とはなんだったか」「戦争はいかに終わったか」「終わったあとの社会と文化」「現代との関わり」の4点を軸に進めていきます。				
授業計画	第1回 9/30 はじめに 第2回 10/7 ヴェトナム戦争とその時代（1） 第3回 10/14 ヴェトナム戦争とその時代（2） 第4回 10/21 戦争の終わりに向けて 第5回 10/28 戦争の翌朝 第6回 11/11 癒しの逆説（1） 第7回 11/18 癒しの逆説（2） 第8回 12/2 教訓は教訓たり得たか 第9回 12/9 現代アメリカへのかかわりと影響（1） 第10回 12/16 現代アメリカへのかかわりと影響（2） 第11回 12/23 現代アメリカへのかかわりと影響（3） 第12回 1/13 最終討議 第13回 1/20 まとめ				
成績評価方法	平常点および期末レポートの総合評価				
講義中に直接使用する教科書	生井英考、2025、『アメリカのいちばん長い戦争』、集英社新書、1,000円（税別）				
上記教科書以外の参考図書					
その他（HP等）					

科目コード	OG166	科目名	文化人類学の世界	科目群	第1群
担当者	栗田 和明 (クリタ カズアキ)				
開講日程・時限	春学期・水曜日・5時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	異なる地域にそれぞれの伝統にしたがって多様な人々が生活している。文化人類学の視点で彼らの生活と文化を学ぶことで、現在の自分とは異なる文化が存在していることを知り、自分自身を相対的にみつめる力を養う。				
授業の内容	<p>アフリカ東部と南アジアの人々の生活を事例として提示する。さらに広い地域での生活を参照しつつ、人類の生活と文化の多様性を知る。その中で自分はどんな視点で世界を見つめ、行動していくべきか、受講生同士のディスカッションを通して思索を深めていく。</p> <p>適宜、小グループによるディスカッションを実施し、便宜的に現在の自分の信条とは異なる立場からの発想も試みる。その後、小レポートの提出を求める。</p>				
授業計画	<p>第1回 4/15 授業のすすめかた、文化人類学とはなにか</p> <p>第2回 4/22 生業と文化</p> <p>第3回 5/13 ディスカッション 仕事について</p> <p>第4回 5/20 出自の形成</p> <p>第5回 5/27 ディスカッション 自分は何者か</p> <p>第6回 6/3 エピソード1 スリランカ農民の生活 1)</p> <p>第7回 6/10 エピソード2 スリランカ農民の生活 2)</p> <p>第8回 6/17 結婚の習俗</p> <p>第9回 6/24 ディスカッション 期待する家族の紐帯</p> <p>第10回 7/1 エピソード3 タンザニア交易人の活動</p> <p>第11回 7/8 年齢と分業、とくに高齢者について</p> <p>第12回 7/15 ディスカッション 高齢者の活動</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	なし				
上記教科書以外の参考図書	参考にする書籍は講義中に紹介する。				
その他 (HP 等)					

科目コード	OG158	科目名	「実験心理学」への招待		科目群	第1群
担当者	堀 耕治 (ホリ コウジ)					
開講日程・時限	春学期・月曜日・4時限	授業方式	対面	単位数	2単位	
備考						
授業の目標	文系に分類されることの多い心理学に文系らしからぬ風貌を与えているのが実験という研究手法である。この授業では実験例の解説を通して心理学の広がりを知るとともに、心理学実験の着想や工夫について理解する。					
授業の内容	心理学実験はわれわれの心や行動について数々の事実を明らかにしてきた。実際、実験研究を知ることなく現代心理学を語ることはできないとさえいえる。この授業は心理学を理解するうえでとくに重要であると考えられる実験を、毎回さまざまな心理学分野から少数とりあげ、詳細かつわかりやすく紹介していく。どこかで耳にしたことがあるような有名な研究だけでなく、心理学者にさえあまり知られていない研究もとりあげる予定である。					
授業計画	第1回 4/13 はじめに：心理学と実験 第2回 4/20 社会心理学から(1)：責任はとってくれますか？ 第3回 4/27 記憶研究から：うたかたの・・・ 第4回 5/11 思考研究から：やさしい？ むずかしい？ 第5回 5/18 学習心理学から(1)：悪いこともおぼえます 第6回 5/25 学習心理学から(2)：原因はあなたかも 第7回 6/1 比較認知心理学から：動物に語らせるには 第8回 6/8 発達心理学から(1)：赤ん坊に語らせるには 第9回 6/15 発達心理学から(2)：幼児の「世界(観)」 第10回 6/22 行動研究から(1)：ギリギリですけど何か？ 第11回 6/29 行動研究から(2)：人のふり見て 第12回 7/6 行動研究から(3)：デタラメな奴っていうけど 第13回 7/13 社会心理学から(2)：仮想が仮想でなくなる時					
成績評価方法	平常点による評価					
講義中に直接使用する教科書	なし					
上記教科書以外の参考図書	講義内で随時紹介					
その他 (HP 等)						

Course number	OG176	Title	Media Studies	Course group	I
Instructor	Hwang, Seongbin (黄 盛彬)				
Period	Spring, Friday, 1 th period	Class	Online	Credits	2
Remarks					
Course Objectives	This course enables students in the "second stage" of their lives to critically examine their personal media history. The main goal is to connect core Media Studies concepts (audience, representation, effects, and industry) to the students' lived experiences as they navigated significant technological and cultural shifts from broadcast media (radio, TV) to the digital age (internet, social media).				
Course Description	This course shifts focus from abstract media theory to concrete personal experience. We will explore the history of communication technology not as a distant timeline, but as a series of events that directly impacted how students lived, learned, and connected with the world. Through weekly thematic discussions, students will be encouraged to share and analyze their memories of media use, from listening to the radio with family to navigating the first home computers. The main deliverable for the course will be a Personal Media History Project —an analytical or creative essay that traces and critically evaluates their relationship with media across their lifetime. The class will operate as a workshop, blending instructor lectures with focused discussion and presentations of personal reflections.				
Class schedule	Lesson 1: 4/10 Introduction: Why Study <i>Our</i> Media History? Lesson 2: 4/17 The World Heard: Radio, Records, and the Media of the Home (1950s-1960s) Lesson 3: 4/24 The Television Era: The Tokyo Olympics and the Rise of Mass-Produced Content (Dramas, Variety Shows) Lesson 4: 5/8 Print & Public Opinion: The Power of Major Newspapers and the Manga/Literary Magazine Ecosystem Lesson 5: 5/15 Media, Representation, and the Problems of Postwar Japanese Identity (Zainichi Koreans, Nationalism) Lesson 6: 5/22 The Home Video Revolution: VCRs, Camcorders, and Producing Personal History Lesson 7: 5/29 The Digital Dawn: First Encounters with PCs, <i>Keitai</i> , Email, and Early Japanese Internet Services Lesson 8: 6/5 Living in Public: Digital Cameras, Social Media, and the Shift to "Always Online" Culture Lesson 9: 6/12 The Fandom Life: <i>Otaku</i> Culture, Fandoms for Dramas/Idols, and Community Across Decades Lesson 10: 6/19 Information Overload: Misinformation, Bias, and Trust in the Digital Age Lesson 11: 6/26 Representation and Legacy: How Media Portrays the 'Second Stage' and Beyond in Contemporary Japan Lesson 12: 7/3 Project Workshop: Structuring Your Personal Media History Essay/Presentation Lesson 13: 7/10 Student Presentations (I): Sharing Personal Media History Projects Lesson 14: 7/17 Student Presentations (II) & Course Wrap-up				
Evaluation	Attendance and class participation including presentation and team paper.				
Textbooks	Hollows, Joanne, 2016, <i>Media Studies: A Complete Introduction</i> , Teach Yourself. (Used as a resource for key theoretical definitions.)				
Other Information	The course will be operated bilingually in Japanese and English. While we will utilize English-language concepts and readings, high English proficiency is not assumed. English materials will be simplified and confirmed in Japanese, and class discussions will be adjusted to accommodate all students, encouraging active participation regardless of language comfort level. The core focus this year is providing a framework for analyzing your lifelong interaction with media technology and culture .				

科目コード	0G239	科目名	プラチナ社会におけるアクティブシニア論	科目群	第2群																																							
担当者	松田 智生（マツダ トモオ）																																											
開講日程・時限	秋学期・火曜日・5時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位																																							
備考																																												
授業の目標	活力ある高齢社会の「プラチナ社会」を示す国内と海外の好事例を分かりやすく紹介し、「学び×社会参加×自己実現」の視点を交えてアクティブシニア論を講義する。RSSCの修了後に自らのセカンドステージを考える授業とする、																																											
授業の内容	次の授業計画に基づきアクティブシニアの要素と国内と海外の好事例を紹介する。一方通行の座学でなく、受講生同士のディスカッションを重視し、講義→討議→共有の実践的且つ双方向な授業を展開する。 毎回、前回の講義のフィードバックを行い、授業の理解度や進捗状況を把握しながら有効に進める。																																											
授業計画	<table border="1"> <tr><td>第1回</td><td>9/29</td><td>プラチナ社会総論（授業ガイダンスを含む）</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>10/6</td><td>アクティブシニアと新たな市場</td></tr> <tr><td>第3回</td><td>10/13</td><td>アクティブシニアと新たな大学</td></tr> <tr><td>第4回</td><td>10/20</td><td>アクティブシニアとまちづくり</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>10/27</td><td>アクティブシニアの 挑戦に学ぶ</td></tr> <tr><td>第6回</td><td>11/10</td><td>アクティブシニアのセカンドステージプラン検討</td></tr> <tr><td>第7回</td><td>11/17</td><td>アクティブシニアのセカンドステージプラン発表</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>12/1</td><td>アクティブシニアのフィールドワーク</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>12/8</td><td>海外に学ぶアクティブシニアのライフスタイル</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>12/15</td><td>アクティブシニアと地方創生</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>12/22</td><td>アクティブシニアと大学連携型コミュニティ①</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>1/12</td><td>アクティブシニアと大学連携型コミュニティ②</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>1/19</td><td>研究発表・今期の総括</td></tr> </table>					第1回	9/29	プラチナ社会総論（授業ガイダンスを含む）	第2回	10/6	アクティブシニアと新たな市場	第3回	10/13	アクティブシニアと新たな大学	第4回	10/20	アクティブシニアとまちづくり	第5回	10/27	アクティブシニアの 挑戦に学ぶ	第6回	11/10	アクティブシニアのセカンドステージプラン検討	第7回	11/17	アクティブシニアのセカンドステージプラン発表	第8回	12/1	アクティブシニアのフィールドワーク	第9回	12/8	海外に学ぶアクティブシニアのライフスタイル	第10回	12/15	アクティブシニアと地方創生	第11回	12/22	アクティブシニアと大学連携型コミュニティ①	第12回	1/12	アクティブシニアと大学連携型コミュニティ②	第13回	1/19	研究発表・今期の総括
第1回	9/29	プラチナ社会総論（授業ガイダンスを含む）																																										
第2回	10/6	アクティブシニアと新たな市場																																										
第3回	10/13	アクティブシニアと新たな大学																																										
第4回	10/20	アクティブシニアとまちづくり																																										
第5回	10/27	アクティブシニアの 挑戦に学ぶ																																										
第6回	11/10	アクティブシニアのセカンドステージプラン検討																																										
第7回	11/17	アクティブシニアのセカンドステージプラン発表																																										
第8回	12/1	アクティブシニアのフィールドワーク																																										
第9回	12/8	海外に学ぶアクティブシニアのライフスタイル																																										
第10回	12/15	アクティブシニアと地方創生																																										
第11回	12/22	アクティブシニアと大学連携型コミュニティ①																																										
第12回	1/12	アクティブシニアと大学連携型コミュニティ②																																										
第13回	1/19	研究発表・今期の総括																																										
成績評価方法	平常点による評価																																											
講義中に直接使用する教科書	松田智生、2017年、『日本版 CCRC がわかる本』、法研、2,500円（税別）。 松田智生、2020年、『明るい逆参勤交代が日本を変える』、事業構想大学院大学、1,500円（税別）。																																											
上記教科書以外の参考図書																																												
その他（HP等）	私主語で描く多世代コミュニティの未来（松田智生） https://shop.gyosei.jp/online/archives/cat01/0000114119																																											

科目コード	0G226	科目名	修了生が語るアクティブシニアの生き方	科目群	第2群
担当者	山口 一夫 (ヤマグチ カズオ)				
開講日程・時限	秋学期・金曜日・4時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	RSSC 創立以来の修了生は1,550名を超える。彼らの修了後のRSSC社会貢献活動サポートセンター登録研究会での活動、個人やグループでのアクティブな活動や社会との関わりを紹介し、これからの活動や生き方を考える。				
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> サポートセンター登録研究会（以下、SC研究会）からの発表。修了生からのキャリア・特技・趣味、RSSCでの学びと人的ネットワークを活かしたコミュニティでの交流や社会貢献活動等の多様な事例の発表。 発表・質疑応答やグループディスカッションを通じ、活動の始動や運営の工夫、課題等を理解する。毎回タイムリーなフィードバックも行う。 これからの自分の生き方や人生設計を考察する。 				
授業計画	<p>第1回 9/25 「アクティブシニアの多様な生き方を探る」(担当教員)</p> <p>第2回 10/2 SC研究会の事例発表(3件)</p> <p>第3回 10/9 SC研究会の事例発表(3件)</p> <p>第4回 10/16 SC研究会の事例発表(3件)</p> <p>第5回 10/23 グループディスカッションとまとめ・発表会①</p> <p>第6回 10/30 個人・グループの社会貢献活動の事例紹介(1~2件)</p> <p>第7回 11/6 個人・グループの社会貢献活動の事例紹介(1~2件)</p> <p>第8回 11/20 NPO法人の社会貢献活動の事例紹介(1~2件)</p> <p>第9回 11/27 NPO法人の社会貢献活動の事例紹介(1~2件)</p> <p>第10回 12/4 RSSC同窓会及び同窓会事業の事例紹介(2件)</p> <p>第11回 12/11 グループディスカッションとまとめ・発表会②</p> <p>第12回 12/18 同好会・研究会からの事例発表(2件)</p> <p>第13回 1/8 同好会・研究会からの事例発表(2件)</p> <p>第14回 1/22 授業の総括(担当教員)</p> <p>*各団体の発表日程は前後することもある。</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書					
その他(HP等)					

科目コード	0G244	科目名	NPO法人の理論と事例研究		科目群	第2群
担当者	森 卓也 (モリ タクヤ)					
開講日程・時限	春学期・火曜日・5時限	授業方式	対面	単位数	2単位	
備考						
授業の目標	アクティブシニアが様々な社会貢献活動を行う際の「器」としてNPO (Non Profit Organization) 法人の基礎知識を学ぶとともに、具体的なNPOを事例研究することでアクティブシニアライフの実現手段としての可能性を検討します。					
授業の内容	RSSC 受講者のNPOへの関心度合は様々だと思いますが、本授業はRSSCにおけるNPO入門科目としてNPO自体への興味・関心を促すことを意図しています。実務の詳細ではなく、NPO法人制度ができた背景やその収益構造、NPO特有のマーケティング等の基礎を紹介します。またNPO実践者との対話やグループワークなど双方向型授業を通じて受講生間でのコミュニケーション促進を行い、「講義を履修した全受講生が『顔見知り』になる」を目指します。					
授業計画	<p>第1回 4/14 イントロダクション</p> <p>第2回 4/21 NPO法人とは何か -NPO法人の過去・現在・未来</p> <p>第3回 4/28 NPOの説明責任と情報公開</p> <p>第4回 5/12 NPOの事業計画と収益構造 - ソーシャルビジネスの資金調達</p> <p>第5回 5/19 NPOとマーケティング - 行動を促すコミュニケーション</p> <p>第6回 5/26 中間課題(個人ワーク)発表会(1日目)</p> <p>第7回 6/2 中間課題(個人ワーク)発表会(2日目)</p> <p>第8回 6/9 NPO実践者との対話(その1)</p> <p>第9回 6/16 NPO実践者との対話(その2)</p> <p>第10回 6/23 NPO実践者との対話(その3)</p> <p>第11回 6/30 最終課題(グループワーク)の説明</p> <p>第12回 7/7 グループワーク</p> <p>第13回 7/14 最終課題(グループワーク)発表会、講評</p> <p>*ゲスト講師の予定等により授業計画を変更する場合があります。</p>					
成績評価方法	平常点による評価					
講義中に直接使用する教科書	なし(講義の都度レジュメ等を配布します)。					
上記教科書以外の参考図書	公益財団法人パブリックリソース財団編、2022、『NPO実践マネジメント入門【第3版】』、東信堂、3,080円(税込)					
その他(HP等)	日本政策金融公庫『ビジネスプラン見える化BOOK』 < https://www.jfc.go.jp/n/finance/social/sakutei.html >					

科目コード	0G219	科目名	ソーシャルビジネスの理論と実務		科目群	第2群
担当者	永沢 映 (ナガサワ エイ)					
開講日程・時限	夏期集中 8月24日、25日、26日(10:00~17:00)		授業方式	対面	単位数	2単位
備考						
授業の目標	地域や社会の課題解決を事業として実施をするソーシャルビジネスやコミュニティビジネスへの関心が高まっている。講座では豊富な事例を動画や資料で学び、ノウハウを習得して実践に向けた具体的なプラン作成を進めていく。					
授業の内容	<p>以下の内容について学び、検討をし、形を作っていく。</p> <p>① ソーシャルビジネスの考え方や必要性について学ぶ ② ソーシャルビジネスの事例研究 ③ ソーシャルビジネスのノウハウ ④ 課題の抽出から解決策の検討・意見交換 ⑤ 事業計画書の作成と実践に向けた検討</p>					
授業計画	<p>第1日 第1回 ソーシャルビジネスを学ぶ 第2回 ノウハウの習得1 第3回 ソーシャルビジネスの事例研究1 第4回 ソーシャルビジネスの事例研究2 第5回 ソーシャルビジネスの事例研究3</p> <p>第2日 第6回 ノウハウの習得2 第7回 ソーシャルビジネスの事例研究4 第8回 地域課題・ニーズを図るための演習1 第9回 地域課題・ニーズを図るための演習2 第10回 ソーシャルビジネス事業計画書作成</p> <p>第3日 第11回 ソーシャルビジネスの事例研究5 第12回 ソーシャルビジネスの事例研究6 第13回 事業計画書作成に向けたポイントの整理 第14回 実践に向けた事業計画の作成と意見交換 * 質疑応答、DVD による事例の視聴を毎回実施</p>					
成績評価方法	平常点による評価					
講義中に直接使用する教科書	資料、教材は事前にデータで配布および投影(原則として紙の配布は致しません)。					
上記教科書以外の参考図書	特になし。必要に応じて資料としてデータにて共有します。					
その他 (HP 等)						

科目コード	OG256	科目名	生物多様性と社会の持続可能性	科目群	第2群
担当者	奇二 正彦 (キジ マサヒコ)				
開講日程・時限	春学期・月曜日・5時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	現代社会が直面する生物多様性の損失という課題を、多角的かつ体系的に理解し、行動できる市民となることを目的とする。				
授業の内容	本授業では、生物多様性・生態系・生態系サービスなどの基礎概念を理解し、人間社会が自然の恵みに依存してどのように成立しているかを理解する。次に、気候変動、土地利用変化、外来種など、生物多様性損失の主要因を国際的知見に基づいて学ぶ。さらに、人間が自然に対して抱く価値観の多様性を整理し、それが政策や行動選択に影響することを考察する。その上で、生物多様性回復に向けた実践事例を取り上げる。最後に、持続可能な社会に向けて主体的に行動する具体的な方法を考察する。				
授業計画	第1回 4/13 序論とコースの紹介 第2回 4/20 生物多様性とは 第3回 4/27 生物多様性と生態系サービス 第4回 5/11 自然に対する私たちの価値観 第5回 5/18 自然に対する私たちの価値観 第6回 5/25 生物多様性の現状と原因 第7回 6/1 生物多様性の現状と原因 第8回 6/8 生物多様性を回復させる様々な取り組み 第9回 6/15 生物多様性を回復させる様々な取り組み 第10回 6/22 私たちにできること 第11回 6/29 私たちにできること 第12回 7/6 総括 第13回 7/13 総括				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	特になし				
上記教科書以外の参考図書	特になし				
その他 (HP 等)	特になし				

科目コード	0G242	科目名	国際政治とグローバル市民社会の構想	科目群	第2群
担当者	竹中 千春（タケナカ チハル）				
開講日程・時限	秋学期・火曜日・4時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考					
授業の目標	グローバル化の急速な進行が、隣国や移民・マイノリティなどを排す反動的ナショナリズムを惹起し、国際社会を動揺させています。格差を縮小し、武力紛争を止め、人権の遵守される世界をどう構築するか。一緒に考えましょう。				
授業の内容	世界金融危機、難民と移民の急増、気候変動、パンデミック、経済危機とエネルギー危機、ウクライナ戦争、中東紛争の再燃、核戦争の脅威など衝撃的の事件が続く、多くの国々で民主主義が傾き権威主義政治への移行が起こっています。超大国アメリカは、移民排斥と「偉大なアメリカの復興（MAGA）」を唱えるトランプ大統領が率い、国際社会を動揺させています。複合危機の渦中にあるかの世界を誰が救うのか。今日の課題を捉え、市民の担う役割とその力を考察します。				
授業計画	<p>第1回 9/29 グローバルな複合危機の時代</p> <p>第2回 10/6 気候変動・温暖化・水資源と国際社会</p> <p>第3回 10/13 感染症のパンデミックと国際社会</p> <p>第4回 10/20 国家は豊かさを守るか①</p> <p>第5回 10/27 国家は豊かさを守るか②</p> <p>第6回 11/10 国家は平和を守るか①</p> <p>第7回 11/17 国家は平和を守るか②</p> <p>第8回 12/1 移民・難民・移動する人々の時代</p> <p>第9回 12/8 人権侵害・マイノリティ・女性</p> <p>第10回 12/15 盗賊のインド史：女盗賊プーラン・デーヴィー</p> <p>第11回 12/22 暴力の連鎖をもたらすのは誰か、解くのは誰か</p> <p>第12回 1/12 ガンディー 平和を紡ぐ人</p> <p>第13回 1/19 総合討論：市民としてどう生きるか</p> <p>* 世界情勢の変化に応じた授業計画の変更は開講時に示します。</p>				
成績評価方法	平常点および期末レポートの総合評価				
講義中に直接使用する教科書	藤原帰一、2025、『世界の炎上』、朝日新聞出版、990円（税込）。竹中千春、2004、『世界はなぜ仲良くできないの?』、CCCメディアハウス、電子書籍、861円（税別）。竹中千春、2018、『ガンディー 平和を紡ぐ人』、岩波新書、820円（税別）。				
上記教科書以外の参考図書	竹中千春、2010、『盗賊のインド史』、有志舎、2,808円（税込）。A・セン、2017、『アマルティア・セン講義』、筑摩書房、1,100円（税込）。藤原帰一他編、2022、『気候変動は社会を不安定化させるか』、日本評論社、2,970円（税込）。				
その他（HP等）	他の参考文献や資料、ビデオ鑑賞などについては各回の授業で紹介いたします。				

科目コード	OG236	科目名	現代社会と民法	科目群	第2群
担当者	野澤 正充 (ノザワ マサミチ)				
開講日程・時限	夏期集中 8月3日、4日、5日 (10:00~17:00)	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	この授業では、これまで法律と関わってこなかった受講生が、論理的に物事を考える力を養うとともに、日常生活に身近な民法をとおして、日本の現代社会や世界を見る力を養うことを目的とする。				
授業の内容	授業は、①民法の基礎的な知識を講義する部分と、②具体的な事例を基に、受講生がグループで検討する部分とから成る。そして、他のグループの発表を聴くことにより、いろいろな考え方や見方があることに気づくと共に、各自が法的な物の考え方を身に付け、意見を発表できるようにする。かつて法学部で学んだ方はもちろん、これまでの人生において全く法律と縁がなかった受講生でも、十分に理解できる内容とするつもりである（理解のため、映画や写真も用いる）。				
授業計画	第1日 第1回 法学への導入—Introduction 第2回 民法典の成立 第3回 契約自由の原則 第4回 約款の意義と解釈 第5回 事情変更の原則 第2日 第6回 契約交渉の不当破棄 第7回 説明義務違反① 第8回 説明義務違反② 第9回 契約の成立 第10回 契約の効力 第3日 第11回 危険負担とその移転 第12回 契約の解除① 第13回 契約の解除② 第14回 まとめ				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	野澤正充、2024、『契約法—セカンドステージ債権法 I [第4版]』、日本評論社、3,000円（税別）。				
上記教科書以外の参考図書	なし（六法があればなおよいが、レジュメでも対応可能）				
その他（HP等）					

科目コード	0G243	科目名	金融論	科目群	第2群
担当者	鉢村 健 (ハチムラ タケシ)				
開講日程・時限	秋学期・水曜日・4時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	現代社会は「債務の膨張」を通じて、大きなレジューム変化に直面しています。授業では資本主義の根幹をなす「通貨と金融」を理論と現実の両面から検証する中で、将来の課題と問題点を「自らの視点で捉え直す力の涵養」を目指します。				
授業の内容	授業では「貨幣と信用」を多面的に追いかけて、論理的な思考訓練を繰り返します。世界経済は「グローバル化と技術革新」の下で高度化する一方、「市場の寡占化と所得の格差拡大」をもたらした不安定な社会を作りました。今後のデジタル決済と量子技術の発展によって、世界のマネーは大きく変わろうとしています。しかしこの社会現象は「膨張した負債管理」と「巨額な資金決済」なしに実現しません。金融の視点から「現代社会が抱える課題の本質と将来像」について考えましょう。				
授業計画	<p>第1回 9/30 オリエンテーション講義「金融膨張と国際新秩序」</p> <p>第2回 10/7 貨幣論(1)「銀行券と信用」—通貨の発行管理と信用創造</p> <p>第3回 10/14 貨幣論(2)「現金の流通構造」—還流システムと裾野産業</p> <p>第4回 10/21 貨幣論(3)「デジタル通貨」—新しいデジタル決済と暗号資産</p> <p>第5回 10/28 金融論(1)「民間金融」—民間金融機関の歴史的変遷と将来像</p> <p>第6回 11/11 金融論(2)「中央銀行」—業務内容と直面する政策課題</p> <p>第7回 11/18 金融論(3)「金融市場」—金融政策と財政政策(含む MMT)</p> <p>第8回 12/2 金融構造論(1)「日本経済」—経済指標で見る「失われた30年」</p> <p>第9回 12/9 金融構造論(2)「地方経済」—消滅する地方都市とマネーの動き</p> <p>第10回 12/16 金融構造論(3)「世界経済」—中央銀行と自国第一主義</p> <p>第11回 12/23 国際金融論(1)「国際協調」—グローバリズムと国際機関</p> <p>第12回 1/13 国際金融論(2)「開発援助」—途上国支援と中銀デジタル通貨</p> <p>第13回 1/20 国際金融論(3)「負債膨張とディベースメント取引」—マネロン</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	講義用のパワーポイントを毎回提供します(教科書の指定はありません)。				
上記教科書以外の参考図書	理解を深めたい学生用に、推薦できる専門書を適宜紹介します(購入不要です)。				
その他(HP等)					

科目コード	0G247	科目名	信託機能を活用した社会貢献・財産管理	科目群	第2群
担当者	堂園 昇平（ドウゾノ ショウヘイ）				
開講日程・時限	秋学期・月曜日・4時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考	本講座は、公益財団法人トラスト未来フォーラムによる寄付講座となります。				
授業の目標	人生100年時代シニアが豊かなセカンドステージを送るうえでは、賢明な財産管理と適切な資産運用が重要であることから、現代的機能が注目されている信託について理論と実務・社会貢献への活用を学び、賢い人生設計に資する。				
授業の内容	中世英国において発生し時代と共に発展してきた信託の歴史・制度と公共性・社会貢献・多様な機能を理解し、公益信託や家族の財産管理に役立つ遺言代用信託・民事信託等を考察する。投資信託における信託機能と資産運用にも言及する。相続対策と信託の活用にも実務的に取り組む。受講生の目線で期待される新しい信託を考える。外部講師の高度な専門性に基づく理論と実務、平易かつ興味深い講義を展開し、グループ討議を取り入れる等、双方向コミュニケーションを図る。				
授業計画	<p>第1回 9/28 講座の目的、信託の仕組みと機能</p> <p>第2回 10/5 シニアに役立つ信託商品の理解</p> <p>第3回 10/19 シニアの賢い資産運用</p> <p>第4回 10/26 信託の過去・現在・未来</p> <p>第5回 11/9 金融老年学</p> <p>第6回 11/16 超高齢社会における後見制度と信託</p> <p>第7回 11/30 超高齢社会における信託の活用法</p> <p>第8回 12/7 相続対策と信託の活用～信託の利用で何ができるか？</p> <p>第9回 12/14 今から考える相続対策 贈与・信託で財産を活かす</p> <p>第10回 12/21 今から考える相続対策（遺言は大切な家族への思いやり）</p> <p>第11回 1/18 信託を作ってみよう、総括</p> <p style="text-align: center;">* 外部講師がそれぞれの専門分野を分担して講義を進める。 講師の都合による変更もあり得る。</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書					
その他（HP等）					

科目コード	0G253	科目名	シニアのための経営学		科目群	第2群
担当者	佐々木 宏 (ササキ ヒロシ)					
開講日程・時限	秋学期・水曜日・4時限	授業方式	対面		単位数	2単位
備考						
授業の目標	経営学は実践の学問といわれます。基礎講義とともに、ほぼ毎回、講義に関連する受講者同士のディスカッションを行い、身近な問題やテーマを題材に組織や人の問題について考えていきます。					
授業の内容	経営学には経営戦略など「組織」を研究する側面と、働く人やチームなど「人」を研究する側面の2つがあります。そこには、古くからあるテーマと、サステナビリティやAI など新しいトピックが混在しています。これまで経営学を系統的に学んだことがないことを前提に、よく知られた経営学の理論、経営学者や経営者の考え方などを紹介します。授業では、受講生同士のディスカッションを通じて、学びを深めていきます。また、Python 実習にもチャレンジします。					
授業計画	<p>第1回 9/30 オリエンテーション</p> <p>第2回 10/7 社会科学と経営学</p> <p>第3回 10/1 企業と戦略Ⅰ</p> <p>第4回 10/21 企業と戦略Ⅱ</p> <p>第5回 10/28 企業と戦略Ⅲ</p> <p>第6回 11/11 企業と戦略Ⅳ</p> <p>第7回 11/18 社会とイノベーションⅠ</p> <p>第8回 12/2 社会とイノベーションⅡ (Python 実習)</p> <p>第9回 12/9 組織と人Ⅰ</p> <p>第10回 12/16 組織と人Ⅱ</p> <p>第11回 12/23 経営学の原書／経営者の考えに触れようⅠ</p> <p>第12回 1/13 経営学の原書／経営者の考えに触れようⅡ</p> <p>第13回 1/20 全体のまとめ</p> <p style="text-align: right;">* 受講者の状況をみながら、フレキシブルに変更していく可能性あり。</p>					
成績評価方法	平常点による評価					
講義中に直接使用する教科書	固定のテキストは使いません。毎回、教材を配布いたします。					
上記教科書以外の参考図書	P. F. ドラッカー、2005、『ドラッカー365の金言』、ダイヤモンド社、2,800円(税別)。 松下幸之助、2011、『成功の金言365』、PHP 研究所、1,800円(税別)。					
その他 (HP 等)	講義の性格上、毎回のディスカッションはどうしてもご自身のご経験などが題材になることが多いので、受講に当たっては、その点ご理解ください。					

科目コード	0G300	科目名	社会老年学	科目群	第3群
担当者	安藤 孝敏 (アンドウ タカトシ)				
開講日程・時限	春学期・金曜日・4時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考					
授業の目標	高齢社会とはいかなる社会であるのかを理解し、自分自身の今後の生き方と関連づけながら、これからの高齢社会のあり方を考察できるよう、社会老年学の基礎的な知識と考え方を修得することがこの授業の目標である。				
授業の内容	この授業では、人口の高齢化、高齢期の健康、定年退職、社会関係などのテーマを取り上げ、高齢社会の特徴について検討する。そして、社会と個人の高齢化を踏まえて、これからの高齢期のライフスタイルについて考えていく。授業は、講義資料、映像資料、関連 Web サイトなどを活用して進める。受講者には、講義内容や資料に関するコメント・感想などのリアクションペーパーの提出を求める。また、オンライン授業の特性を活かして、意見交換を行う反転型授業も実施する。				
授業計画	<p>第1回 4/10 オリエンテーション&イントロダクション</p> <p>第2回 4/17 高齢社会を科学する：社会老年学とは？</p> <p>第3回 4/24 高齢期をみる目：高齢者観</p> <p>第4回 5/8 人口の高齢化：高齢化社会の実態</p> <p>第5回 5/15 人口高齢化のメカニズム：少子化と長寿化</p> <p>第6回 5/22 高齢社会の現状1：映像視聴と意見交換の反転型授業</p> <p>第7回 5/29 高齢期の健康：生活機能の自立性</p> <p>第8回 6/5 高齢社会の現状2：映像視聴と意見交換の反転型授業</p> <p>第9回 6/12 定年退職、就業意欲と職業観</p> <p>第10回 6/19 高齢社会の現状3：映像視聴と意見交換の反転型授業</p> <p>第11回 6/26 高齢期の社会関係</p> <p>第12回 7/3 多様化する高齢期のライフスタイル</p> <p>第13回 7/10 「高齢社会対策大綱」にみる高齢社会のデザイン</p> <p>第14回 7/17 まとめ</p> <p>*ゲストスピーカー招聘により、計画変更の可能性あり</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	特に指定しない。 授業毎に講義資料（パワーポイント）などを配信する。				
上記教科書以外の参考図書	必要に応じて、授業中に適宜紹介する。				
その他（HP等）	総務省統計局 https://www.stat.go.jp/ 内閣府共生社会政策・高齢社会対策 https://www8.cao.go.jp/kourei/index.html				

科目コード	OG330	科目名	最後まで自分らしく	科目群	第3群
担当者	小谷 みどり (コタニ ミドリ)				
開講日程・時限	春学期・金曜日・5時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考					
授業の目標	生ある者(物)の宿命である「死」を医学、民俗学、哲学、社会学、経済学など多角的に俯瞰することで、「残された時間をどう生きるか」を改めて考えるきっかけとしていただきたい。				
授業の内容	オムニバス形式で毎回異なるテーマを取り上げ、授業を進める。死の概念、終末医療、葬送など、死の現状と問題について横断的に学習する。正解がないテーマゆえ、さまざまな考え方があることを知ったうえで、自分はどうしたいかを考えていただける工夫をしたい。				
授業計画	第1回 4/10 多死社会・死を取り巻く社会の状況 第2回 4/17 死とは何か(死の基準) 第3回 4/24 死にまつわるタブーや因習の成立 第4回 5/8 現代人の死生観 第5回 5/15 自身の死生観を考える 第6回 5/22 安楽死と尊厳死 第7回 5/29 最後まで生きるとは 第8回 6/5 現代社会におけるお墓の問題 第9回 6/12 お墓のゆくえ 第10回 6/19 お葬式 宗教的、歴史的考察 第11回 6/26 お葬式 社会的、経済的考察 第12回 7/3 死者を弔うとは 第13回 7/10 弔われない死者と無縁社会 第14回 7/17 死後をどう託すか				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	小谷みどり、2025、『<ひとり死>時代の死生観』、朝日新聞出版、1,760円(税込)。 小谷みどり、2017、『<ひとり死>時代のお葬式とお墓』、岩波新書、858円(税込)。				
その他(HP等)					

科目コード	OG327	科目名	セカンドステージの哲学対話	科目群	第3群
担当者	佐々木 一也 (ササキ カズヤ)				
開講日程・時限	春学期・火曜日・4時限	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	人は人生経験を重ねてくると個々の経験の意味を考えるようになります。それが自分だけの考え方にならないように、対話の中で哲学的発想法を実践し、上達することによって、普遍的見地に立って考えられるようになります。				
授業の内容	授業は4つの部分で構成されます。①予め配信された資料に基づく講師の主旨説明・15分。②受講生が数名のグループに分かれて行う対話・45分。③各グループの代表的意見の報告・10分。④講師の講評と質疑、リアペ・20分。なるべく②の時間を多く確保します。①の資料は授業前週の土曜日までに配信されるので、必ず予め読んでくるのが条件です。グループメンバーは毎回変わります。リアペについては重要と思われる意見や質問に対して講師の考え方が配信されます。				
授業計画	<p>第1回 4/14 導入。哲学的に考えるとはどのようにすることか？</p> <p>第2回 4/21 暇になったらどうするか？</p> <p>第3回 4/28 知識・教養は何の役に立つのか？</p> <p>第4回 5/12 学校・社会・家庭生活とは何であったか？</p> <p>第5回 5/19 他者とは自己にとってどういう存在なのか？</p> <p>第6回 5/26 長生きすることの効用とは何だろうか？</p> <p>第7回 6/2 自由で民主的な社会を長持ちさせるにはどうしたらよいか？</p> <p>第8回 6/9 客観的で合理的な知識とはどういうものか？</p> <p>第9回 6/16 人はなぜ不合理で没客観的な何かを信じるのか？</p> <p>第10回 6/23 受講者提案による対話テーマ①</p> <p>第11回 6/30 受講者提案による対話テーマ②</p> <p>第12回 7/7 受講者提案による対話テーマ③</p> <p>第13回 7/14 振り返り 哲学的に考えるとは何であったか？</p> <p style="text-align: center;">* 残された疑問について年度末に課外活動として「哲学懇話会」を開催します。</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書					
その他 (HP 等)					

科目コード	0G334	科目名	死生観と精神的健康	科目群	第3群
担当者	大野 久 (オオノ ヒサシ)				
開講日程・時限	秋学期・火曜日・1時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考					
授業の目標	近年、死後の人の意識の存続について科学観が大きく変化している。それとともに死生観も大きく変化した。あわせて、こうした現象と理論を学ぶことが精神的健康にも大きく影響する。本講義では、その内容について学ぶ。				
授業の内容	1980年代以降、死後の人の意識がどのようになるかについて科学的と考えられる多くの報告がある。このことにより人間の意識は死後も存続するという方向に死生観は大きく変化している。オカルトと呼ばれる信憑性の低い資料も多い中、科学的検証に耐えうる内容をもつ臨死体験、前世の記憶、死後の世界の記憶、アイデンティティ論からみた魂現象、量子力学から見た魂理論、仏教思想からみた魂理論、魂理論と精神的健康、魂理論の効用などについて講義する。				
授業計画	第1回 9/29 死生観と精神的健康 第2回 10/6 臨死体験 キューブラー・ロス 第3回 10/13 前世の記憶 ブライアン・ワイズ 第4回 10/20 前世の記憶 キャロル・ポーマン 第5回 10/27 死後の世界の記憶 エベン・アレキサンダー 第6回 11/10 その他の魂現象に関する著作 第7回 11/17 市井の人たちの著作 第8回 12/1 超越的アイデンティティから見た魂理論 第9回 12/8 量子力学から見た魂理論 第10回 12/15 仏教思想からみた魂理論 第11回 12/22 魂理論と精神的健康 第12回 1/12 魂理論の効用 第13回 1/19 まとめ				
成績評価方法	平常点および期末レポートの総合評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書	講義内で紹介する。				
その他 (HP 等)					

科目コード	0G328	科目名	江戸川乱歩をセカンドステージで読む	科目群	第3群
担当者	石川 巧 (イシカワ タクミ)				
開講日程・時限	夏期集中 9月9日、10日、11日 (10:00~17:00)	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	江戸川乱歩の初期短編小説を読みつつ、その作家的生涯と表現の方法を明らかにします。「私たちはなぜミステリーに惹かれるのか？」という問いを携えつつ、文学を研究することの意味と価値を考えます。				
授業の内容	この授業では、立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センターが所蔵する江戸川乱歩の自筆資料（貼雑年譜、文反古、日記、書簡など）を紹介しつつ、それに関連した乱歩作品を精読します。また、乱歩は生涯にわたって数多くの雑誌を創刊し、その編集に情熱を注いだ作家でもありますので、乱歩が関わった雑誌についても幅広く扱います。乱歩作品はエロ・グロなどと形容され、変態的な欲望が描かれているという誤解があります。しかし、その作品の根底にあるのは人間なるものの尊厳を慈しみ、その多様性を表現しようとする極めて純粋な精神だと思えます。				
授業計画	第1日 第1回 江戸川乱歩とは何者か？ 第2回 自筆資料（「貼雑年譜」「文反古」）から辿る江戸川乱歩 第3回 江戸川乱歩と雑誌 第4回 江戸川乱歩と日本のミステリー 第5回 江戸川乱歩から松本清張へ 第2日 第6回 「二銭銅貨」を読む 第7回 「芋虫」を読む 第8回 「二癡人」を読む 第9回 「D坂の殺人事件」を読む 第10回 「屋根裏の散歩者」を読む 第3日 第11回 「人間椅子」「お勢登場」を読む 第12回 「鏡地獄」を読む 第13回 「人でなしの恋」を読む 第14回 受講者のみなさんとの対話				
成績評価方法	平常点および期末レポートの総合評価				
講義中に直接使用する教科書	江戸川乱歩、1960、『江戸川乱歩傑作選』、新潮文庫、693円（税込）。 ※B00K0FFなどの古書店、インターネット販売で中古本が入手可能です				
上記教科書以外の参考図書	立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター公式図録、2025、『江戸川乱歩ラビリンス 池袋から人外境まで』、図書出版みぎわ、2,640円（税込）。				
その他（HP等）	立教大学大衆文化研究センター https://www.rikkyo.ac.jp/research/institute/rampo/				

科目コード	0G315	科目名	セカンドステージの住まいづくり			科目群	第3群
担当者	甲斐 徹郎 (カイ テツロウ)						
開講日程・時限	夏期集中 8月6日、7日、10日 (10:00~17:00)			授業方式	対面	単位数	2単位
備考							
授業の目標	自身の「しあわせ」と「健康」とを目的として、自分の住まいを点検し、自己評価できる力を身につけ、その改善計画を立案することを目標とする。						
授業の内容	我々にとっての「しあわせ」と「健康」には暮らしの拠点である住まいのカタチが大きく影響している。たとえば、クーラーに頼らない「涼しさ」や、深部体温を下げない「暖かさ」といった住まいの熱環境は快適性を高め、同時に健康寿命に大きく作用する。また、身近なコミュニティとの関係があり孤立しないことは、「しあわせ」の本質であり、「健康」への影響も指摘されている。この授業では、人生の拠点としての住まいのあり方を考え、その改善の仕方を学ぶ。						
授業計画	<p>第1日 第1回 住まいと健康</p> <p>第2回 クーラーなしでクーラーより快適な住まいの作り方(1)</p> <p>第3回 クーラーなしでクーラーより快適な住まいの作り方(2)</p> <p>第4回 健康に大きく影響する冬暖かい住まいの作り方</p> <p>第5回 孤立しない住まいの作り方</p> <p>第2日 第6回 「しあわせ」の本質を考える</p> <p>第7回 住まいのカタチとコミュニティの関係</p> <p>第8回 自分にとってのコミュニティの意味を考える</p> <p>第9回 コミュニティの暮らしへの活かし方(1)</p> <p>第10回 コミュニティの暮らしへの活かし方(2)</p> <p>第3日 第11回 コミュニティが形成されるメカニズム</p> <p>第12回 人生の拠点として自分の住まいをデザインする演習1</p> <p>第13回 人生の拠点として自分の住まいをデザインする演習2</p> <p>第14回 受講生による企画発表</p>						
成績評価方法	平常点および期末レポートの総合評価						
講義中に直接使用する教科書							
上記教科書以外の参考図書	甲斐徹郎、2018、『人生を変える住まいと健康のリノベーション』、新建新聞社、1,900円(税別)。甲斐徹郎、2016、『不動産の価値はコミュニティで決まる』、学芸出版社、1,900円(税別)。						
その他(HP等)	https://www.teamnet.co.jp/vision						

科目コード	OG350	科目名	現在（いま）を生きるための健生学	科目群	第3群
担当者	堀 エリカ（ホリ エリカ）				
開講日程・時限	夏期集中 8月27日、28日、31日（10:00～17:00）	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	医療などの進歩により長寿を享受できる現在だからこそ向き合う必要がある「最期の瞬間を迎えるまで如何に健やかに生きるか」という課題に対し、広義な意味での「健康」や「医療」、そして「死生学」の視点から学びを深め、解決への糸口を探る。				
授業の内容	<p>私たちが健やかな人生を送るために、日々の生活の中で対処することが求められるものの中から、本授業においては次の3つに焦点を当てたうえで、実学的な内容を中心に授業を展開していく。</p> <p>① 心身状態の把握と調整 ② 医療への理解と主体的な受け方 ③ 人生の最終章である「死」についての理解</p>				
授業計画	<p>第1日 第1回 イントロダクション & ヘルスリテラシー（情報真偽の見極め） 第2回 病気を知る（病因、現代的な病気） 第3回 健康づくりのためのヘルスチェック（病気予防と生活習慣） 第4回 病院の選び方とかかり方（選択の視点、セカンドオピニオン） 第5回 特別授業（ゲストスピーカーの予定）</p> <p>第2日 第6回 医療コミュニケーション（医療者と患者との間に生じるズレ） 第7回 医療の意思決定（意思決定過程、インフォームド・コンセント） 第8回 終末期の医療（在宅療養、ホスピス） 第9回 生命倫理（安楽死と尊厳死） 第10回 特別授業（ゲストスピーカーの予定）</p> <p>第3日 第11回「死」とは何か（キューブラー・ロス氏の死に逝く人との対話） 第12回 死の準備教育（遺される（た）人の心理プロセス） 第13回 死の疑似体験ワーク 第14回 まとめ</p> <p>* 時事問題などを取り上げる可能性があるため、講義テーマ・内容が若干変更となる場合あり * 講義回の入替え、ゲストスピーカー回の日時変更の可能性あり</p>				
成績評価方法	平常点および期末レポートの総合評価				
講義中に直接使用する教科書	資料を適時配布				
上記教科書以外の参考図書					
その他（HP等）					

科目コード	OG323	科目名	ケア（対人援助）の方法論	科目群	第3群
担当者	結城 俊哉（ユウキ トシヤ）				
開講日程・時限	夏期集中9月4日、7日、8日（10:00～17:00）	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	『ケアのフォークロア』をテキストとして読み込みながら、ケアという対人援助と呼ばれる行為の中に内在する「目的」・「方法」・「意味」について自己の生活経験に引き付けながら考える力を涵養することが目的です。				
授業の内容	本授業は『ケアのフォークロア』を読むをメインテーマとして、エリクソン・E.H.のライフサイクル論の視点をベースとしながら、ケアについて、文芸作品からの考察、ケアの担い手の病理論、ケアの稽古論、ケアと文化・宗教論などについて議論します。さらに、「映像作品」（現在検討中）の考察を通して「ケア」と私たちの「生活（Life）」との関係（生命・暮らし・人生）について一緒に考えてみたいと思います。				
授業計画	<p>第1日 第1回 オリエンテーション：自己紹介・〈序〉</p> <p>第2回 第1章 ケアの原風景を考える</p> <p>第3回 第2章 ライフの視点とケアをめぐる言葉たち</p> <p>第4回 第3章 ケアの基本原則と生活問題構造的理解の方法</p> <p>第5回 第4章 ケアの担い手の病理現象とは何か</p> <p>第2日 第6回 ワークショップ</p> <p>第7回 第6章 ケアの稽古論</p> <p>第8回 第7章 シャーマニズムとケアの関係論</p> <p>第9回 第8章 ケアの現場で生きること（前半）</p> <p>第10回 第8章 ケアの現場で生きること（後半）</p> <p>第3日 第11回 終章 ケアの寓話、そして、大切なもの</p> <p>第12回 視聴覚教材から学ぶ（1）</p> <p>第13回 視聴覚教材から学ぶ（2）</p> <p>第14回 まとめ：「私がケアについて考えたこと」</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書	結城俊哉、2022、『ケアのフォークロア：対人援助の基本原則と展開方法を考える』（4刷版）、高菅出版、2,600円（税別）。				
上記教科書以外の参考図書					
その他（HP等）					

科目コード	OG105	科目名	健康長寿とアンチエイジング	科目群	第3群
担当者	杉浦 克己 (スギウラ カツミ)				
開講日程・時限	夏期集中 8月3日、4日、5日 (10:00~17:00)	授業方式	対面	単位数	2単位
備考					
授業の目標	加齢に伴って起こるフレイル（虚弱）について基本事項をおさえた上で、健康寿命の延伸に関わる因子について学ぶ。そして、健康長寿を達成しウエルネスな人生を送るための生活習慣的アプローチを理解し、これからの人生を再度デザインする。				
授業の内容	健康寿命の延伸を図る上での危険因子（メタボ、ロコモ、認知症、薬物依存、うつ、ストレス、感染症等）と保護因子とを認識する。これらの因子に関わる、運動・栄養・休養、喫煙・アルコール等の生活習慣の基礎的知識を理解した上で、これらをどのように実行していくかについて、人生の流れ（勉強、仕事、結婚、家庭、老化、死）に沿って、環境や社会とのつながりという大きな視点と、自分自身の生き方や態度という全人的尺度とによって捉え学んでいく。				
授業計画	第1日 第1回 ウエルネスとは 第2回 健康長寿とアンチエイジング 第3回 健康長寿を阻む病気（メタボリックシンドローム） 第4回 健康長寿を阻む病気（ロコモティブシンドローム） 第5回 健康長寿を阻む病気（認知症）。課題（食事を調べる） 第2日 第6回 筋肉を増やして体脂肪を落とす栄養と運動 第7回 サプリメント・健康食品 第8回 休養・睡眠のとり方 第9回 依存（薬物、アルコール、タバコ） 第10回 うつとストレス、笑い。課題（落語を聴く） 第3日 第11回 生命倫理（映画鑑賞） 第12回 感染症（3大感染症、インフルエンザ、COVID-19） 第13回 環境の科学 レポート提出 第14回 まとめ				
成績評価方法	平常点および期末レポートの総合評価				
講義中に直接使用する教科書	特になし				
上記教科書以外の参考図書	杉浦克己、2024、『一般教養としてのサプリメント学』、草思社、2,200円（税別）。 杉浦克己、2021、『スポーツ栄養学がわかる』、大修館書店、2,200円（税別）。				
その他（HP等）	https://www.youtube.com/channel/UCRBkmIF2S0FH_j5ne9IYhVw				

科目コード	0G312	科目名	セカンドステージとテクノロジー	科目群	第3群
担当者	村上 祐子 (ムラカミ ユウコ)				
開講日程・時限	秋学期・火曜日・2時限	授業方式	オンライン	単位数	2単位
備考					
授業の目標	情報技術を中心として科学技術の歴史を理解する。また科学技術の将来予測について手法や過去の調査結果を学ぶ。そのうえで、今後にわたって科学技術が我々の社会や生活に及ぼす影響について考察する。				
授業の内容	科学技術がもたらした私たちの生活の変化のこれまでの歴史を振り返り、自分自身のライフスタイルの変化を思い起こす。また過去に行われた未来予測を現在の視点で評価してみる。そのうえで、人工知能をはじめとする現在の先端科学技術の社会応用の例を概観し、これらが私たちの生活をこれからどのように変えていくのか、考えていく。				
授業計画	<p>第1回 9/29 ガイダンス 小レポート：自己紹介</p> <p>第2回 10/6 身近な人工知能技術1</p> <p>第3回 10/13 身近な人工知能技術2</p> <p>第4回 10/20 身近な人工知能技術3</p> <p>第5回 10/27 身近な人工知能技術4</p> <p>第6回 11/10 過去の先端科学技術1</p> <p>第7回 11/17 過去の先端科学技術2</p> <p>第8回 12/1 過去の先端科学技術3</p> <p>第9回 12/8 過去の先端科学技術4</p> <p>第10回 12/15 未来のライフスタイル1</p> <p>第11回 12/22 未来のライフスタイル2</p> <p>第12回 1/12 未来のライフスタイル3</p> <p>第13回 1/29 まとめ</p> <p>* 内容には変更の可能性があります</p>				
成績評価方法	平常点による評価				
講義中に直接使用する教科書					
上記教科書以外の参考図書					
その他 (HP 等)	参考 HP を授業内で指示します。授業の参加者と意見交換をすることを強く勧めるため、オンラインでの意見交換を行います。				